

寄稿

理工学部4年 渡辺梨紗子（天童）

この学生派遣プログラムへは、まちづくりに関心があったこと、そして、就職活動をしている中で自分の置かれている環境の狭さを少しでも広げたいと考えていたことから、偶然見つけた当プログラムへの参加を決めました。きっかけは少し勢いに身を任せたところがあったものの、天童市へ行けて良かった、このプログラムに参加して良かったと、今では強く思います。

夏休みからこれまで、現地調査や報告会を終えて、本当に得るものが多くありました。その中でも、天童市で働くひと、天童市に住むひと、すなわち天童市で日々を過ごしているひとたちと、出会い、繋がりを持つことができたことが、何よりも大きな収穫でありました。天童市の直面する課題を解決の方向へ導くことを目的に訪れたつもりが、人の温かさや素晴らしい自然環境、文化に触れることで、何故かこちらが助けられたような心持ちになりました。横浜で生まれ育った私にとってあまり経験したことのない環境であり、こうした豊かな自然、美味しい空気や食べ物、人の温かさなど、地方都市こそ持つ良さをなくしてはいけないと思いました。今回当プログラムに参加したことで、そのことへ、ほんの少しの一助になることが出来ていれば、大変光栄に思います。そして、天童市で出来た新しい繋がりをこれからも大切にしていきたいと強く思います。

天童市における学生派遣プログラムは、3人一組のチームで活動をしてきました。現地調査までは、チーム内で課題解決のために必要なこと、調査内容などの事前準備などを積み重ね、最後にはその成果を報告会として天童市の方々へ発表する機会まで頂く事ができました。天童市は全体で3チームあり、それぞれのチームがリーダーを筆頭に、個性を生かした提案を行っており、発表を聞いているだけでも、こういう考えもあったのだと、大変参考になりました。これまでリーダーという役目を経験することがほぼ皆無に等しかった私にとっては、チームで活動を始めたときから不安とプレッシャーを常に感じてきましたが、報告会を迎えるころには、自分自身のできる範囲でリーダーとしての立ち振る舞いを考え、不安とプレッシャーから押しつぶされずに楽しく終えることができました。そういった面でも学ぶことは非常に大きかったです。

当プログラムは、交流を持つ地方都市の一助となる可能性を大いに秘めていること、また、参加する学生自身の成長することができる場でもあることから、今後も息長く続いて欲しいなど、プログラムを終えた今、心から思います。